

BAR CODE LABEL

Publication number: JP55102083

Publication date: 1980-08-04

Inventor: IMOO SHINICHI

Applicant: MITSUBISHI ELECTRIC CORP

Classification:

- international: *G06K19/06; G06K7/01; G06K7/10; G06K19/06;
G06K7/01; G06K7/10; (IPC1-7): G06K7/10; G06K19/06*

- European:

Application number: JP19790009957 19790130

Priority number(s): JP19790009957 19790130

[Report a data error here](#)

Abstract of JP55102083

PURPOSE:To enable to detect and identify the non-unified bar code, by describing non-unified bar code and the special bar code representing the non-unified bar code on the bar code label.

CONSTITUTION:Assuming that the scanning line of automatic reader sequentially turns clockwise for scanning, the scanning line 5 comes after the scanning line 4 is produced. Accordingly, in the automatic reader, when the scanning line 4 is produced, the special bar code 3 is read in and the non-unified bar code 2 is read in with the scanning line 5 generated. Accordingly, based on the bar code label 1 on which the non-unified bar code 2 and the special code 3 are described, even if two types, the unified bar code and the non-unified bar code, are present, the description of the non-unified bar code 2 is identified by reading in the special bar code 3 at the automatic reader, allowing correct read-in.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—102083

⑬ Int. Cl.³
G 06 K 19/06
7/10

識別記号

庁内整理番号
7201—5B
6419—5B

⑭ 公開 昭和55年(1980)8月4日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ バーコードラベル

電機株式会社通信機製作所内

⑯ 特 願 昭54—9957

⑰ 出 願 人 三菱電機株式会社

⑱ 出 願 昭54(1979)1月30日

東京都千代田区丸の内2丁目2

⑲ 発 明 者 芋生信一

番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 葛野信一 外1名

尼崎市南清水字中野80番地三菱

明 細 書

1. 発明の名称

バーコードラベル

2. 特許請求の範囲

単位バーコードが縦方向に相互に平行に配列されてなる非統一バーコードが記載されたバーコードラベルにおいて、前記非統一バーコードの前方に前記バーコードラベルに前記非統一バーコードが記載されていることを示す特殊バーコードを記載したことを特徴とするバーコードラベル。

3. 発明の詳細な説明

この発明はPOS(Point Of Sales)システム等におけるバーコードラベルの自動読取装置において、バーコードラベルの読取りの誤動作をなくするようにしたバーコードラベルに関するものである。

従来の自動読取り用バーコードラベルとして一般に知られているものを第1図に示す。図において、①はバーコードラベル、②～④はバーコードラベル①上に縦方向に相互に平行に配列された単

位バーコード、②はこれらの単位バーコード②～④により構成されるバーコードである。ここで単位バーコードというのはその横幅の4分の1に区分した各部分が黒か白かによつて2進4桁の数字を、10進法では、0から15までの数字を表わすことができるものである。図において単位バーコード②は2進法で、10 10、10進法で、10を表わし、スタートコードとして用いられている。また単位バーコード③は2進法で、10 11、10進法で、11を表わし、エンドコードとして用いられている。スタートコード②とエンドコード③との間の単位バーコード④ないし⑤はそれぞれ10進法で、0から9までの数字を表わすことができるもので、この例ではそれぞれ、1ないし6を表わし、このバーコードラベルは単位バーコード②と③により商品番号、12を表わし、単位バーコード④ないし⑤で価格3456円を表わしていることを読み取ることができる。

ここでバーコードにはJIS規格で定められた

(1)

(2)

統一バーコードと、この統一バーコードと関係なく、各会社等で自由に定めた自社バーコード等（これを非統一バーコードと呼ぶ）とがあり、第1図のものは非統一バーコードの一例である。今仮りに統一バーコードの記載されたバーコードラベルと、第1図のような非統一バーコードの記載されたバーコードラベルとが存在する場合、これを目動読取装置で読ませると、統一バーコードなのか、非統一バーコードなのかの識別ができず、いずれか1つのバーコードしか読取れないという欠点があった。

この発明は上記のような従来のものの欠点を除去するためになされたもので、バーコードラベルに非統一バーコードと非統一バーコードであることを示す特殊バーコードとを記載し、非統一バーコードの検出、識別を可能としたバーコードラベルを提供することを目的としている。

以下、この発明の一実施例を図について説明する。

第2図はこの発明の一実施例によるバーコード (3)

ードを読取ることによつて非統一バーコードが記載されていることを識別し、次に非統一バーコードを正しく読取ることができ、一方特殊バーコードがないときには最初から統一バーコードとして読取ることができる。

なお、明記実施例では特殊バーコードを非統一バーコードの前方に非統一バーコードに対し90°傾斜して記載しているが、この特殊バーコードの位置、方向には制限がなく、どのような位置、方向に設けてもよい。従つて特殊バーコードはあらかじめラベルに印刷しておくこともできる。

以上のように、この発明のバーコードラベルによれば、非統一バーコードの記載されたバーコードラベルに非統一バーコード識別のための特殊バーコードを付加したので、統一バーコードと非統一バーコードが混在する場合でもいずれのバーコードも正しく読取れる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来のバーコードラベルを示す図、第2図はこの発明の一実施例によるバーコードラベ

(5)

ラベルを示し、図において、第1図と同一符号は同一のものを示す。(3)は非統一バーコード(2)の前方に非統一バーコード(2)に対し90°傾斜して記載した特殊バーコードである。また(4)は自動読取装置で前記特殊バーコード(3)を読取るときの走査方向を示す走査線、(5)は同じく自動読取装置で前記非統一バーコード(2)を読取るときの走査方向を示す走査線である。

次に動作について説明する。

今仮りに自動読取装置の走査線が時計回りの方向に順次回転して走査が行なわれているものとすると、第2図において走査線(4)が発生したのちに走査線(5)が発生する。従つて自動読取装置では、走査線(4)が発生したときに特殊バーコード(3)を読取り、非統一バーコードを待ち受ける状態となり、次に走査線(5)が発生して非統一バーコード(2)を読み取る。

従つてこのバーコードラベルによれば、統一バーコードと非統一バーコードの2種類が存在する場合においても、自動読取装置でまず特殊バーコード (4)

手前
ルを示す図である。

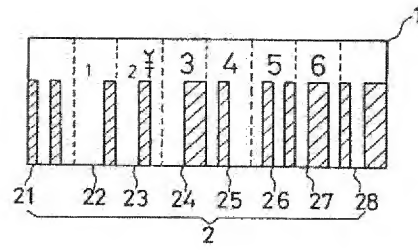
(1)…バーコードラベル、(2)…非統一バーコード、(3)…特殊バーコード、(4)…走査線、(5)…走査線。

なお図中、同一符号は同一、又は相当部分を示す。

代理人 廣野 信一（外1名）

(6)

第 1 図



第 2 図

